

「金魚ちょうちん」そよぐまち

柳井市長(山口県) **井原健太郎**



弘前の金魚ねぶたがルーツ

「あざやかな赤色、真ん丸お目目におちよほ口。金魚のちょうちん、かわいいですね。(生きている)金魚もたくさんいるのですか」と幾度となく問われます。お返しを決まり文句は、「実は、(養殖などの)金魚はいないので。でも、金魚ちょうちんはたくさんいますよ」。

江戸時代末期、今から150年以上前の幕末に、当時は瀬戸内海の海上交通の要衝として栄えていた柳井のとある商人が、弘前(青森県)の「金魚ねぶた」をヒントに作ったのが、金魚ちょうちんの始まりと言われています。竹ひご、和紙、柳井市の伝統織



弘前の金魚ねぶた(写真左)と金魚ちょうちん

物である柳井縞の染料で作られるそのちょうちんは、山口県を代表する郷土の民芸品として、長く市民に愛されてきました。

私は、本市に隣接する田布施町で生まれ育ちました。小学校の先生の影響から日本史に深く関心を持ち始め、6年生(昭和61年)時には、友達と二人で、初代内閣総理大臣・伊藤博文公資料館(光市)、室町時代の町割に江戸時代の建物が保存されている国選定重要伝統的建造物群保存地区(伝建地区)・白壁の町並み(柳井市)、「男児志を立て……人間到る処青山あり」の漢詩で有名な幕末勤皇僧・月性が開いた私塾「清狂草堂」や展示館(当時・大島町、現・柳井市)など、まさに到るところを自転車や車で巡っていました。その頃に前身のイベントが創始され、平成4年から正式に始まった「柳井金魚ちょうちん祭り」は、現在も毎年8月13日、白壁の町並みから柳井駅までの一帯に約4千個の金魚ちょうちんが装飾される中で開催されています。特に、その中の約2500個の金魚ちょうちんには灯りがともされ、町並みの軒先などに連なる情景は、幻想的で独特の雰囲気醸し出されます。また、10数基の金魚ちょうちんねぶたの爆走、踊りや屋台、フィナーレの871発の花火まで、お盆の帰省客や市内外から毎年9万人もの来場者で賑わう山口県東部を代表する夏のイベントになっています。



柳井金魚ちょうちん祭りでの爆走金魚ねぶた

私は、高校卒業後に上京し、31歳の時に縁あって東京から柳井へ移りました。そしてその後、平成21年3月に34歳で市長に就任しましたが、少年時代に親しんだ町並みや金魚ちょうちんには、不思議な縁を感じると同時に、格別な感慨と思い入れを持ってきました。

柳井発、日本橋経由全国各地へ

その金魚ちょうちんが、東京・日本橋(中央区)での朝活イベント「ニホンバシ46ドゥフケン」などを契機に、その界隈のデパートや飲食店での装飾、隅田川を遊覧する金魚ちょうちん船が始まり、ホテル雅叙園東京(目黒区)での和のあかり展、東京



金魚ちょうちんの灯りが幻想的な白壁の町並み

ドラマの背景に頻繁に登場するなどとしており、着実に知名度を獲得してきました。

金魚がご縁で

金魚がご縁で、金魚の産地・大和郡山市（奈良県）との交流も始まりました。本市での金魚すくい大会の開催や全国22自治体による「顔の見える」防災協定への加盟、同じく金魚の産地である弥富市（愛知県）、長洲町（熊本県）などが集結した金魚サミットへの特別枠での参加など、全国の各自治体と

のさまざまな連携・協力にもつながっています。

柳井金魚ちょうちん祭りは、令和3年に第30回の節目を迎えます。それに先立ち、平成31年2月には弘前市の方が本市を訪問されての講演会が開催されました。また、本市の市民有志が弘前市を訪れ、講演などイベントの開催や本家本元の「弘前ねぶた祭り」で金魚ちょうちんを手に練り歩くなど、150年という時空と本州最北端と最西端という距離を超えて始まった弘前と柳井の今後の展開を私も心待ちにしています。

さらに、地元では文具やお菓子、赤が共通する広島東洋カープとのコラボ商品など多数の金魚ちょうちん関連グッズが、人気を博しています。また、本市の子どもたちが学校で自分だけのオリジナル金魚ちょうちんの製作を体験するなど、生まれ在所への愛着を深めるきっかけにもなっているのです。

その一方で、伝建地区への観光客数の減少や老朽化していく建造物の維持・保存など、課題は山積です。そうした中、私は、出張などで全国に赴く際には必ず時間をとって「一人歩き」をしています。最近では、戊辰戦争など



日立シビックセンター（日立市）にて職員さんと（写真中央が市長）

幕末維新史の舞台となった白石市（宮城県）や長岡市（新潟県）などを訪問した際に、地元の方々とお話してきたことは思い出深い経験です。これからも、時に金魚ちょうちんの力を借りながら、全国各地のひと・地域・歴史を知り、つながり合いたいと思います。そして、150年前に柳井の商人が弘前の金魚ねぶたをヒントにして柳井の金魚ちょうちんを生み出したように、全国の自治体の取り組みから、何かのまちづくりのヒントを得たいとの思い一心なのです。いつかどこかで、愛くるしい表情の金魚ちょうちんを偶然見かけられたら、本市のことを思い出していただければ幸いです。また、8月13日のお祭りへのご来場を心よりお待ちしております。たくさんの方の金魚ちょうちんと共に。